

第7回 香美市立図書館及び美術館収蔵庫建設等検討委員会

平成29年4月25日 18:30～

本庁3階会議室

出席委員：中村直人委員長・濱田正彦副委員長・山本恭弘副委員長

大岸真弓委員・岡花瞳委員・岡林良浩委員・式地美智委員・仙波美由記委員・野村貴子委員・

町田由岐子委員・森本ちづ委員・山重壮一委員・山本祥子委員・依光美代子委員（14名）

事務局：時久教育長・野島次長・岡本課長・和田班長・都築館長・松岡・佐竹館長・井上・依光

CM：日建設計コンストラクションマネジメント 森・安岡

事務局

（教育次長・生涯学習振興課長 新任あいさつ）

教育長あいさつ

建設位置については白紙に戻してもう一度検討をやり直すということ、今回からの建設等検討委員会にお願いしたい。これまでなされてきた候補地の検討内容も聞きながら、ほかの場所についての市民の方から具体的な意見もあるだろうし、委員の皆さんからは、どういう場所に選定をして、また、こういう土地がある、などの情報もいただきながら検討をしていきたい。基本計画については、土地が決まったら手直しが必要ということもあるだろうが、今まで検討してきた基本計画の中身で、使える部分は入れながらご検討いただきたい。

自治会長会で「新図書館について、市民の意見が反映されていないという声をきく、新図書館はどこにできるのか」という質問がでていた。生涯学習振興課長からは、「建設場所は検討中であり決定していない」ということとともに、「候補地の公表ができていないことについては、県の事業認定を受けるまでは公にはいけないと誤解していた」「事業認定に必要な計画図面についての理解不足のため、申請書類作成に時間を費やし未提出であった」「合併特例債の借入期限に関して、事業完成時期を実際の借入最終期限よりも手前と判断して進めてきた」という3点の認識不足や誤りにより、市民の声を反映させる機会を失ったとお断りをし、今後、議会への説明や丁寧な検討を行っていく、と説明をした。

副市長（図書館及び美術館収蔵庫建設用地検討委員会委員長）

（庁内で組織した「図書館及び美術館収蔵庫建設用地検討委員会」での候補地検討の経過説明）

委員

11候補地を5か所からさらに3ヶ所に絞って順位づけをする際、点数評価をしてはどうかという意見はなかったのか。

副市長

5ヶ所に絞った段階で評点はつけているので、その評点を選考の最終的な判断にはしないと、委員の中であらかじめ申し合わせていた。委員からは11ヶ所の中からはいい土地が3ヶ所選定されたという認識があったので、そのなかで選ぶとするならば最終的には挙手しかないという意見だった。

委員

用地検討委員会で最終的に3ヶ所に絞った段階で建設等検討委員会に諮るものとする、ということになっていたのか。

副市長

われわれ委員はそういう認識だった。その3ヶ所いずれも不適切と認められた場合はあらためて用地検討委員会のほうへ投げ返すという話だったので、3ヶ所について建設等検討委員会で協議がなされるものという認識だった。

委員

その会がなされていれば、今こういうことになっていなかった。

委員

一旦、振り出しに戻ったということ。これからということだろう。ただ、振り出しに戻ったとしても、今まで検討してきたところがどうしてもイメージとして残る、まったく白紙からといっても、どこがいいという案はそんなに出てこないだろう。

副市長

今後の進め方について事務局から提案があると思うので、その中で議論していただきたい。

委員長

説明いただいた内容は、一度得点をつけて得点順に順位をつけるというのが決定までのプロセスだと思うが、最終決定のときに挙手になっており、得点と挙手の人数が入れ替わっている部分がある。こういう決め方は、よくやられているということか。

副市長

初めてだった。

委員長

候補地だけ報告しその中から最終的には教育委員会のほうで決めていただいていたと思うが、決められる基準がきちんと何項目かで評点をつけられたのであり、誰が見てもそういう点数になるんだということが理解できていれば、僅差であっても合理的な理由によって決まったという説明ができればいい。二転三転すると、後からまた説明を加えないといけなくなる。できるだけ客観的・合理的に決められるような項目立てをし、誰が見ても合理的だと思う決め方になればいい。

副市長

今回、2番目に得点が高かった用地は（調整区域であり）単価が安かった。その項目だけが評価が高かったということもあったのではないかと思う。

委員

諸条件に関して、評価項目については事務局のほうから説明はなかったか。

副市長

説明はあった。委員にも意見を求めたが特段なかった。(用地検討委員会での検討結果は)判断材料であるという事務局の方針だったので、そこでの評価で決定となると、意見があったかもしれない。

委員

図書館という建物に関して、この条件でいいのかという、多少の違和感がある。

副市長

委員となった職員自体も図書館の専門的な職員でないので、各担当の視点から点をつけていると思う。都市計画担当であれば、住宅を建てることのできる場所に図書館を建てなくても、市街化調整区域に建ててもいいのではないかという視点もある。まちづくりの担当であれば、公共交通が通っているところや住民の利便性がいいところを選定してくると思う。

CM

(今後の用地の選定方針についての基本的な基準や今後の流れを説明)

(要旨)

- ・新しい体制で「用地選定に透明性の確保」と「市民意見の反映」二つの大きな柱を考えている。
- ・「透明性の確保」は市民懇談会やホームページなどにおける進捗報告。第三者機関としての建設等検討委員会内の建設位置検討部会による評価。評価の仕方も建設位置検討部会のほうで決めた内容を、建設等検討委員会で検討していただく。
- ・「市民意見の反映」は、市民懇談会以外に市民アンケートとして意見聴取を考えている。
- ・アンケート調査は、無作為抽出の1000件にアンケート郵送をメインとし、小中学校などでも協力いただく。無作為抽出にもれた方でも、ホームページから参加ができるようにする。
- ・アンケートで用地についての自由なご意見があれば位置検討に反映させていこうと考えている。
- ・パブリックコメントや市民懇談会の実施を考えている。
- ・前回の基本計画では「土佐山田」と決まっていたが、香美市は合併して広いためエリアを決めていくのに、都市計画のマスタープラン等、全体の人口の重心などから広域の視点から考えたい。
- ・エリアについては市民懇談会も意見を聞く場としたい。
- ・同時に具体的な土地については、開発や建築の事業費など含め検証できる範囲で評価していく。
- ・これまで検討された土地についてもすべて切り捨てるわけではなく、俎上には載せて地権者の意思確認を行う。
- ・候補地を絞っていく中で、建設等検討委員会で意見聴取を行ったり、ある程度絞れたら市民懇談会でも意見を聞く場を設けたい。
- ・5月末頃からアンケートを実施し、その中に新しい土地情報が出てくればそれも含めて土地を検索する。
- ・建設位置検討部会で評価の方法を決めてから、俎上に乗ったものを評価する。
- ・広域エリアについては、(市の都市計画プラン策定に関わった)工科大の先生の研究内容などもふまえて、どこがふさわしいか、市民の皆さんの意見を聞く場を入れていきたい。
- ・うまくいけば最終的には8月末くらいに最終候補地を選定していきたい。

- ・その後、設計者を選ぶプロポーザルを開催し建設設計に進んでいく考え。
- ・全体のマスタースケジュールは、用地選定が8月末で終われば、建設設計に進み、仮に2階建ての規模とすれば10カ月くらいの工事期間であるので、当初目標の平成32年3月のオープンが可能と考える
- ・特例債の期限を考え、当初の完成目標の期限にこだわらなければ、想定している6ヶ月の基本設計の期間をもっと長くとりもう少し丁寧な進め方ができる。
- ・6月半ばころ位置検討委員会から進捗報告をし、フィルタリングしていきたい。
- ・用地を何のために選ぶのか、図書館はどういう場所にあってほしいのかという思いで点数の重み付けを変えていくように、コンセプトづくりのところでしっかりしておかないと、なぜこんなところに、といった結果になる。

(アンケート調査についての説明)

- ・ウェブ上だけだと高齢の方が参加できるかという懸念がある。
- ・アンケートの主な目的は、用地選定にあたっての市民意見の反映で、市民とのコミュニケーション手段のひとつとして行う。同時に新図書館への希望や既存図書館の利用状況も調査する。
- ・方法は無作為抽出による1000人に対して郵送する。過去の実績では30%程度の回収率。
- ・無作為抽出に漏れた方への対策としては、ホームページ上でのウェブアンケートを同じ内容で行う。
- ・小中学校・高校・大学に対しては、小中高に対してはアンケート用紙を配布し、大学生についてはウェブアンケートに回答してもらうように考えている。

委員

開館時間に対する質問については、たいいていの人にはなるべく遅くまでやっていけばいいと回答する。遅くまでやれるのならそれに越したことはないが、現実に図書館をオペレーションするとなると大変であるので、どの時間帯なら利用しやすいか、というたずね方にしてはどうか。

委員

位置の質問で、山田・香北・物部という聞き方は、もう少し工夫が必要ではと感じる。香美市の教育が「よってたかって」というようになっているので、学校と図書館の関係をなんとか表現できないだろうか。

委員

位置の質問に関連してということだと、選択肢が3つでは広げてしまうとぼやけてしまわないか。図書館はどこでも建てられるという感覚にとられがちということもあるので、質問の仕方を考えていかないといけないのではないか。

委員

どのエリアに建設してほしいかと尋ねているが、基本計画案に「新図書館は土佐山田町内とし美術館収蔵庫を併設」となっている。全部振り出しなのか。

CM

なぜ土佐山田に勝手に決まっているんだというのが指摘をされたところだった。収蔵庫についてもなぜ合築するのかということも議会質問では触れられていた。きちんと議論して積み上げていかないと、ご理解いただけないということだと思う。

委員

どうしていまさら聞くのかということに対しては、アンケートが集まったら数値化して根拠となるので、質問として入れておいてよいと思う。

委員

この地区の聞き方は、無作為抽出でアンケートをしても、人口のパーセンテージが土佐山田町に住んでいるので、自動的に土佐山田になると思うので、決まっていることを尋ねていると思う人がいるかもしれない。どこの地区の人にとっても利便性が高いところが望ましいと思う。今ある交通手段で時間や距離の中心とか、人口重心だとかはたぶん土佐山田寄りになるのではないかと思う。都会につくる場合であっても必ずしも真ん中ではなく、みんなが集まりやすいところ。

CM

年齢層によって行動範囲が違う。お年寄りならそんなに広くない。ある程度の年齢になると非常に広い。中学生は自転車があるから広いが、小学生は自転車と徒歩。幼児は大人に連れられていくので広い。香美市の人口重心にもっていくと誰もいない場所になるので、人が一番多いところにもっていくといいのか、といった議論にもなる。

委員

今回は今ある図書館の建て替えということで話をしているが、本当は総合的な問題があり、図書館の場合、高齢者や小学生は近くないと行けないので、分館や分室、移動図書館のサービスポイント、また連携によっては学校図書館へは、子どもや高齢者が行けるように整備し、中央館だけは車や公共交通で行くという考え方をする。せっかく分館がある市なので、そういったイメージが湧きやすいようにすればいいのではないか。

委員長

基本的な役割分担をきちんとした上で、中央館的な役割にして連携をすると報告書にも書いてある。

委員

無作為に 1000 人抽出するとき、香北や物部が多くなったときに状況が違ってきはしないか。

事務局

人口比率がいくらなのでというのではなく、トータルで無作為抽出という例はあるので、そういう形を考えている。

委員長

それほど統計的には偏らないだろう。

委員

アンケートには項目が入っていないが、収蔵庫を合築することで委員会で決まっているが、本当にそれでいいのか気になる。職員の数が少なく、作品の出し入れに運送のトラックが必要という状況が、今後延々と続く。八王子プラザの中で可能ではないかということに対する意見は担当部署の意見ではないと思う。まちづくりをどうするかということなので、トップの考えやまちづくりの観点から考えなくてはおかしくないか。

委員長

そのことは、別のところへ建物を建て全体で運営するとなると、現実性がないという判断から図書館に合築したほうが現実性があるという検討結果になった。図書館だけでなく、美術館収蔵庫に関しても早急につくらなければならない状況がある。それを放置してきていることに関してどう早急に処理するかということ、現時点で合築でやる以外に方策がとれないと判断した。周辺に建てられるのではないかとということや、施設の中のほかの機能を出すことも検討したが現実味がない。今やっても同じ結果になるだろう。費用がいくらかかっても今の場所々に収蔵庫を入れるとして、健診や社会福祉協議会を新たに建てるというならできるだろうが、今の市の状況からして現実的ではないと思う。

委員

図書館と合築して、作品の移動を考えると、延々と人員や運搬費用が必要。

委員長

美術館と健康関連の施設と福祉関連施設が一緒に入っている施設はないはず。建てたときに、どうしてあのような運営にしたのか、逆に我々が聞きたいくらい。一緒に入っていることが足かせであり、利用の範囲が狭まっており、収蔵庫もあのような状態になっている。長期的な運用や文化的な施設の運用などを考えずにつくって運営しているように見える。

委員

美術館や図書館の分野はほとんど補助金がないので、補助金があるものと一緒にされてしまうケースが多いのでそのパターンではないか。

委員

思うところはあるだろうが、これまでの議論があって今に至っている。

委員

アンケートについて、「どこに建ててほしいか」という自分の希望を尋ねる質問と、「どこに建てるべきか」という客観的に答える質問は、どちらかひとつでいいのではないか。

CM

基本は同じ。自分の家に近いところに建ててほしいが、やはり土佐山田なのではないか、というような意見があればそれを抽出したい。

委員

アンケート結果を見て用地を探していくということにしていかないと全然動きがとれないのではないか。土佐山田か香北か物部かということであれば検討するまでにとっても時間がかかる。香北や物部からでも土佐山田のどこなら利用しやすいかという質問であればもう少し書き方があるだろうが、土佐山田町内であっても利用しやすい場所について、全然わからないような質問になっていると思うので、なかなか事が進んでいかない気がする。

委員

物部・香北に建てたいという意見が多かった場合にその意見を尊重するのであればそこに建てて教育を支援できるのかと考えたときに、やはり土佐山田でないといけないというのであれば、この質問は回答者に申し訳ないと感じる。

CM

今はまだ意見を聞いていない状態で土佐山田に決めているわけであるので、回答があった意見の中で判断をしたい。

委員

物部という結果が多かったとき、建てる場所は本当に物部なのかどうかの判断をするのは一体何なのか。アンケート結果の意見を尊重すれば物部に建てるべきだが、今まで、小学生など小さい子の支援が重要だというところが話し合われてきた中で、教育を支援することを考えたときにどの場所になるのかを考えると、また土佐山田に戻ってくるのではないかと思う。この質問はどこまで尊重されるのかというところが分からない。

委員

建て替えようとしている本館が山田にあるわけなので、あえてそれを言われるようにする必要もない。図書館は物部にも香北にもあって、ほかの地域になった場合に山田には無くなる。我々が本当に知りたいのは、どういう地区にあったらいいのか。土佐山田地区ということではなくて、その中のどの地区にあったらいいのか。教育委員会としては教育目的や様々な部分でこういったところにあったらいいなどがあると思う。

委員

何のために新しい図書館を建てるのかということを入れていくと、後で選んだ場所がそこにあるかどうかの検証をしたときに、最適で市民もそう考えている、という根拠になるのではないか。アクセスのしやすさや眺めの良さではなく「何のために図書館へ行くのか」。

委員長

具体的に質問項目がつかれるように話を進めると、土地の問題に関しては、山田・香北・物部と地区で聞くよりは、山田地区の図書館を建て替えるということで、本館機能もあるので、山田のどこにあったら利便性が高いか、という聞き方がよいか。子どもたちに利用してもらいたいので、学校からの利便性、アクセスする際の安全性というような感じか。

委員

配置によっては学校がどこにあるかによって、学校との関係を重視した場合と、合併した町村のどこからもアクセスしやすいところとずれる場合がある。子どもは行動半径が小さいし生活道路のほうが危険はないが、香北や物部からのアクセスしやすさとはズレが生じるので、しっかりした考えを持っていないといけないというのがある。

委員

たまたま両方が合致する場所があればいいが。

CM

おっしゃる通りではあるが、住民投票をしようとしているわけではない。どこが多かったとしても、皆さんの考え方をすればよいと思う。ただ、これまで聞いていなかったということに問題があるので、聞くべきだと考える。ほかにも聞きたい内容はあるし、方向性はつけてほしいが、方向性はこの会で考えるべきであり、アンケートの回答者に考えてもらうことではない。そこの理論構築をしていくのがこの委員の皆さんであり、これまで聞いていなくて、思い込んでいるかもしれない部分を吸い上げるのが今回のアンケートの主旨。

委員長

微妙なところ。住民投票をしているわけではないが、アンケートで聞いて数値が出てしまうと、その意見を反映しなければ、市民の意見を聞いていないのかという逆の意見が出る可能性もある。どちらも考えないといけない。

委員

今後充実すべきと考える書籍・資料の選択肢は、郷土史ならば「香美市のことが調べられる本」、自然科学ならば「自由研究の実験や虫のことがわかる本」などといったような、親しみやすい表現にすれば選びやすいと思う。「病気になったときに手続きをどうすればいいか」など、きりがないので全ては書ききれないだろうが、ピックアップしたほうがイメージが湧きやすい。

CM

十進分類で全部網羅するか、自由記入にするか、のふたつの方法があると思う。たとえば建築の本は分類上は「自然科学」だが、携わっている者からすれば「芸術」なので違和感がある。

委員

「地元のことがよくわかる本」や「仕事に役立つ本」、「趣味に使える本」などを複数回答にしておけばだいたいの傾向はつかめる。十進分類的な書き方は選ぶのに困る人がいそう。本を読む人と読まない人がいるので、読む人であれば比較的答えられても、読まない人にとっては難しくなるので、読まない人にも答えてもらえるように質問を工夫する。

委員長

アンケートに関しては、具体的に建設的な意見を集約して事務局に送ってもらいたい。

(事務局から、パブリックコメントへの回答案を提示)

委員長

基本的には今まで話したような内容を市民の皆さんに提供するということ。

CM

基本計画についても再度見直すということでもよろしいか。土地に関しない部分についても、指摘事項が議会からもあったので、事務局で見直しをして、アンケート結果も反映させていこうと考えている。

事務局

アンケート調査についてほかにも質問項目のご提案があれば、事務局に提出いただき、それを再度 CM と調整して、郵送かメールで送らせていただき、それに対するご意見を整理してアンケートをとりたい。

委員長

スムーズに事が運ぶようにできればと思うので、アンケートの件を進めてください。

委員

高知歴史博物館のバックヤードを見せてくれるという記事を読んだ。一度、県立などの美術館の収蔵庫を建設等検討委員会でも見せていただきたいと思っている。博物館と美術館ではずいぶん様式も違うので、合築しようとしている美術館の収蔵庫がどんなつくりになっているのか視察できないだろうか。

CM

収蔵物の種類によってだいたひ収蔵庫は違ひ。香美市の場合は絵画が主である。三次元のものゝ収蔵の仕方が全く違ひ。

事務局

県立美術館の収蔵庫の視察について問い合わせをしてみる。ほかにはありませんか。

委員

位置検討委員会は委員であれば傍聴してもかまわないか。

事務局

基本的には問題ないと思うが、持ち主や価格の問題が出たときにはどうかと。

委員長

基本的には事務局長のほうに問い合わせしてもらひ、許可をもらひうかたちで、原則としては傍聴できるということにしたい。

(教育長あいさつ)

21 : 20 終了